

「海と船が見える坂道」（北九州の宝物）

私の主張

「北九州の残しそして広く PR すべき財産・風景は、「海と船が見える坂道」だ」
 「北九州市一体感の象徴として「市制 50 周年」「北九州港 50 周年」の象徴にすべき」
 「各区の共通財産・風景であり、北九州市の一体感に持ってこい」

背景

「北九州港は、かつては 4 大工業地帯の一つである北九州工業地帯の中心的存在であり、我が国の近代化の拠点となった港です。特に石炭関係、製鉄等製造業からなる我が国の近代化の拠点であり、現在でも利用されているもの、遺産となっているものなど多数あります。また産業に併せて人口も増大し、山の斜面にまで住宅が立地しています。これらについては、北九州にずっと住んでいる方には当然のものに見えても、外から来た人間にとっては非常に新鮮に映るものがあります。

キーワードとしては、「関門海峡」「船」「近代化遺産」「工場」「坂道」があげられます。

その中でも、これまでなかなか焦点が当てられなかった「坂道」、特に、風景に共通性を持たせた「海と船が見える坂道」を中心に「北九州の残しそして広く PR すべき財産・風景」として主張したく思い至りました。

それでは、現時点で、私おすすめの「海と船の見える坂道」を紹介しましょう。

①旧門司（門司区）—— 映画の撮影も行われるくらいいい坂道



旧門司(2丁目)地区の坂道です。

まず、私が、北九州に来て初めて発見した「海と船の見える坂道」です。船から、この坂道を見つけたわけです。これは、いってみるしかないということで休みの日に一見しました。やはり一直線にそして海がよく見えます。

ところが、この坂道の良さは皆さんがもう知っていたのです。なんと、映画の撮影場所になっていたのです。是非この場所を探して行って下さい。

最後に「港の坂道」が歌に出てきた例。歌詞の紹介。私の自宅のある横須賀市出身、渡辺真知子さん「かもめが翔んだ日」に「港の坂道かけおりるとき。。。」という歌詞もあります。

②矢筈（門司区）——船が間近に見えるジャンプ台のような坂道



門司区矢筈町にある坂道について紹介します。これは 2 番目に見つけた坂道。

この坂道を見つけた経緯を紹介します。私、軽登山や旧軍要塞（戦争遺跡）巡りも趣味です。何せ横須賀在住ですから。宿舎の近くの、要塞として有名な、矢筈山にのぼる途中、車道を歩いている時に見つけました。場所は、小森江浄水場から一直線に海

坂道を下から見上げる(後は矢筈山)

上から関門海峡・船・下関を臨む

に向かう道です。地図ではわかりにくいですが、実際に坂道の頂部（実は坂の頂部は周辺で一番高くなっている。）にくるとその景観（坂道のすごさ、海峡の近さ、船の大きさ）に驚きです。そして、海峡を通して、また、山からの、風、香りが想像できます。自動車専用船がこ——んなに大きく見えます。

後日、坂の下から上るときの坂のダイナミックさはさらに驚きです。まるでスキー場のジャンプ台のようです。やはりこの景観が魅力なのでしょう、坂の頂部近くにはレストランが立地していました。是非ゆとりのある方は行って見て下さい。

③枝光（八幡東区）——くろがね線と望玄坂、なんとトンネルの上が坂道



宮田山トンネルの直上に望玄坂



坂の上から洞海湾、新日本製鐵を臨む

八幡東区枝光にある坂道について紹介します。この坂道を見つけた経緯を紹介します。私、さらに、近代化遺産、鉄道にも興味があります。北九州は趣味の絶好の対象。

新日本製鐵の専用鉄道「くろがね線」を調べに行った際に、「宮田山トンネル直上」が一直線に歩道になっているのを発見しました。そして八幡東区側は、「望玄坂」として整備されていました。

北九州市内の坂道・階段においては、名前のある坂道初めてでした。東京・大阪・函館では名前があるのが当たり前。ちなみにこの坂の頂上からは洞海湾が一望でき、船舶も見る事が出来ます。逆に戸畑側からは、遠くに関門海峡を望むことが出来ます。この坂道を登って、洞海湾を見て、牧山（住宅地）尾根縦走をし、都島公園に向かうのがおすすめコースです。

④若松金比羅神社（若松区）——「花と龍」の時代を彷彿とさせる坂道



旧藤ノ木ふ頭から見た金比羅神社 (上)



金比羅神社から見た洞海湾(右上)
金比羅神社の寄進碑石(右下)

若松区の坂道・階段です。若松地区は、以前は、若松駅周辺においては、石炭積み出し基地として発達し、一方、若松の北側は市街地、工場地帯として発達しました。高塔山周辺にも住宅が発達しています。今回は、石炭積み出し基地の旧藤ノ木ふ頭背後の「金比羅神社」の階段を紹介します。若松地区には、火野葦平作「花と龍」に関する場所が多数あります。この金比羅神社も登場し、寄進の碑石にはよく知る名前も見えます。階段は下から見ると一直線に伸び、また神社からは、洞海湾戸畑が見えます。

⑤牧山・都島公園（戸畑区）——若松側から丸見えの坂道



坂の頂上から洞海湾・若松地区を望む(上)



坂の下から坂の頂上を見上げる(上)



市立若松図書館から洞海湾越しに坂道を望む(上)

戸畑区牧山にある坂道。都島展望公園のすぐそば。なぜこの坂道を見つけたか？

実は、若松側からこの坂道が洞海湾を挟んでよく見えます。特に、市立若松図書館からよく見えます。

坂道をおりるとそこには鹿児島島本線の貨物線が走っています。走るのはコンテナ列車のみでありあまり利用されていないのかと思いきや、意

残念なことが一つ。

外と多くの列車が多く走っているのにおどろきです。

牧山の海岸沿いには公園があります。そこに行くには貨物線を渡る必要があります。ところが、踏切が全くなく、天籟寺川までゆくしかありません。踏切か歩道橋が欲しいですね。

⑥西新町（門司区）——関門海峡が左右に見える絶好の視点場・坂道



階段を下から臨む一直線の階段。かなり急。



上から見ると響灘につながる関門海峡。



西新町から関門海峡の船がよく見える。右は海上保安庁関門海峡海上交通センター。やはりここは関門海峡の格好の視点場なのだ。

小倉北区との境界付近西新町、笹尾台付近にある坂道です。旧砲台を戦後宅地開発し出来た坂道・階段でしょう。ここは電車からよく見える住宅地です。いつも電車に乗りながらいつかこの坂道を踏査してみようと思っていました。市役所、テレビ局の人から取材の話があり、

「実際の踏査状況を」ということで、今

まで行こうと思いながら未踏差であった当該地区対象としました。実際いってみると、思った以上に階段は長く急です。まさに、「スキー場の上級者コース」といったところ。だからこそ、逆に、坂の上からは関門海峡がよく見え最高です。ここからは、響灘方面と彦島前面の大瀬戸方面と両方を臨むことができます。たぶん夕日もきれいでしょう。なお、小倉北区の「手向山公園（旧手向山砲台跡）」からもよく見えます。

⑦富野台・小倉北区——場所は山の中腹・映画にも使われる坂道

映画のロケにもよく出る富野台の坂道。電車や船からみると富野台は背後の山の中腹まで開発され大きな家がたくさん見えます。当然のことながら「海と船の見える坂道（階段含む）」があること間違いなしです。実際富野台には、ロケで使われたような階段が多数あり、どれがロケされた階段か特定できませんでした。しかし逆にどれもそれに匹敵するような坂道・階段だらけということ。くまなく歩

いて見たところ、「海と船の見える坂道（階段含む）」は、14カ所ありました。現在、「海と船が見える坂道マップ（富野台地区）」現在作成中です。今回は代表的なところの写真を載せます。



(左)富野台東部の中腹からのぞむ。関門海峡と手向山が見える。

(中)富野台の中心の交差点に下る坂道。製鉄所を見る。自転車で下りたいくらい。

(右)富野台西部の頂上付近。かなり高く、映画のロケ地かも？でも違うかも？

⑧椎ノ木町・戸畑区——山の尾根筋・町と関門海峡を見下ろす

戸畑区の坂道です。戸畑区には、若戸大橋は見えても、「海と船が見える坂道」はあまりないかと思っていました。しかしながら枝光の方から、くろがね線、九国大附属高校(五輪サッカー永井選手出身)等を歩いて行くと、そこに、遠くに関門海峡や製鉄所が見えるすごい坂がありました。これが、椎ノ木町の坂道です。ここは、戸畑区と八幡東区の境界の丘陵の尾根路にあります。北の海に向かって並行していくつか坂道はありますが、その中で一番長いものを紹介します。坂道(150m)と階段(50m)の組み合わせ計200mの坂道です。遠く関門海峡、山口県が臨めます。坂の下から見上げるのも圧巻です。10月には、個人的ですが、この坂を含めて「海と船が見える坂道ツアー」を計画しています。



椎の木台の坂道の頂上部から見下ろす。遠く関門海峡、本州が見える。



この坂道を階段との境界から見上げる。遠くまで道が続き青空がきれい。



ここからは階段。50m 続く。海と本州が近くなる。手すりが布団干し場に。



階段をしたから臨む。右手にも階段が存在。左手には並行して坂道有り。

○取組み始めたきっかけは？

私は「横須賀」に住んでいます。横須賀の山の上に住んでいます。でも山の地形が複雑で、自宅からは海や船は見えません。少し山に登れば見えますが。。。(後々、横須賀にも、海や船が見える坂道がたくさんあることがわかりましたが。。。)

ところが、昨年北九州に来ると、新しい発見！

「北九州も山が多く家も山に向かってどんどん建てられている。住んでいる人は買い物とか大変だろうな。でも実際行くと確かに坂道・階段はきついがそこからの眺め(海と船)はすばらしい。そのような坂道や階段ばかりである。どんどん調べてみよう。」

○なぜ、北九州が「海と船が見える坂道」なのですか？

理由その① 各区共通の財産・風景

北九州は50年前4市合併により北九州市になりました。しかしながら、まだまだ「○○区」「△△区」といって一体感がありません。今こそ共通の財産・風景が必要です。それこそ、「海と船が見える坂道」。

理由その② 平地が少なく、坂道の発達する山の地形が単純

山が複雑に入り込まず単純。面的に見た場合、海から順に、水際線、それに平行な道路、直角に直角な「海と船が見える坂道」が発達。

理由その③ 明治以降の市の発展の歴史を象徴的に表現

北九州市は、明治時代以前の歴史もあるが、やはり最大の発展の歴史は、明治以降の八幡製鉄所等工場の立地、港の発達から始まり、戦後の「日本の四大工業地帯」の1つの形成の歴史である。この結果人口増となり、住宅立地により「海と船が見える坂道」が発達。

理由その④ 関門海峡に面している。

北九州市は、関門海峡に面しているところが多く、船や海がどこからでもよく見える。

○なぜ発達したか？

「明治以降の日本の発展を牽引した産業立地・港の発展による人口増、それに伴う市街地発達の結果」

○もう少し詳しく説明してみましょう。

江戸時代に大きな湊は、北前船の西回り航路など沿岸海運、内陸水運の結節点としての河口部に発達しました。例えば、新潟、酒田、三国(福井)、そして大坂、名古屋。どこも平地です。

しかし明治以降、近代港湾は、富国強兵の下、大型船が入港可能でかつ静穏な海域を確保できる湾に発達しました。その代表的な港が、旧軍関係だと、横須賀、呉、佐世保、舞鶴となり、産業・貿易港湾だと、北九州、神戸、函館などとなります。その結果これまで人が少ないところに人口が集中し、平地がないために、結果的に、山・丘の斜面に住居が建つということになります。そこには、「坂道」が発達します。

○発見方法は？

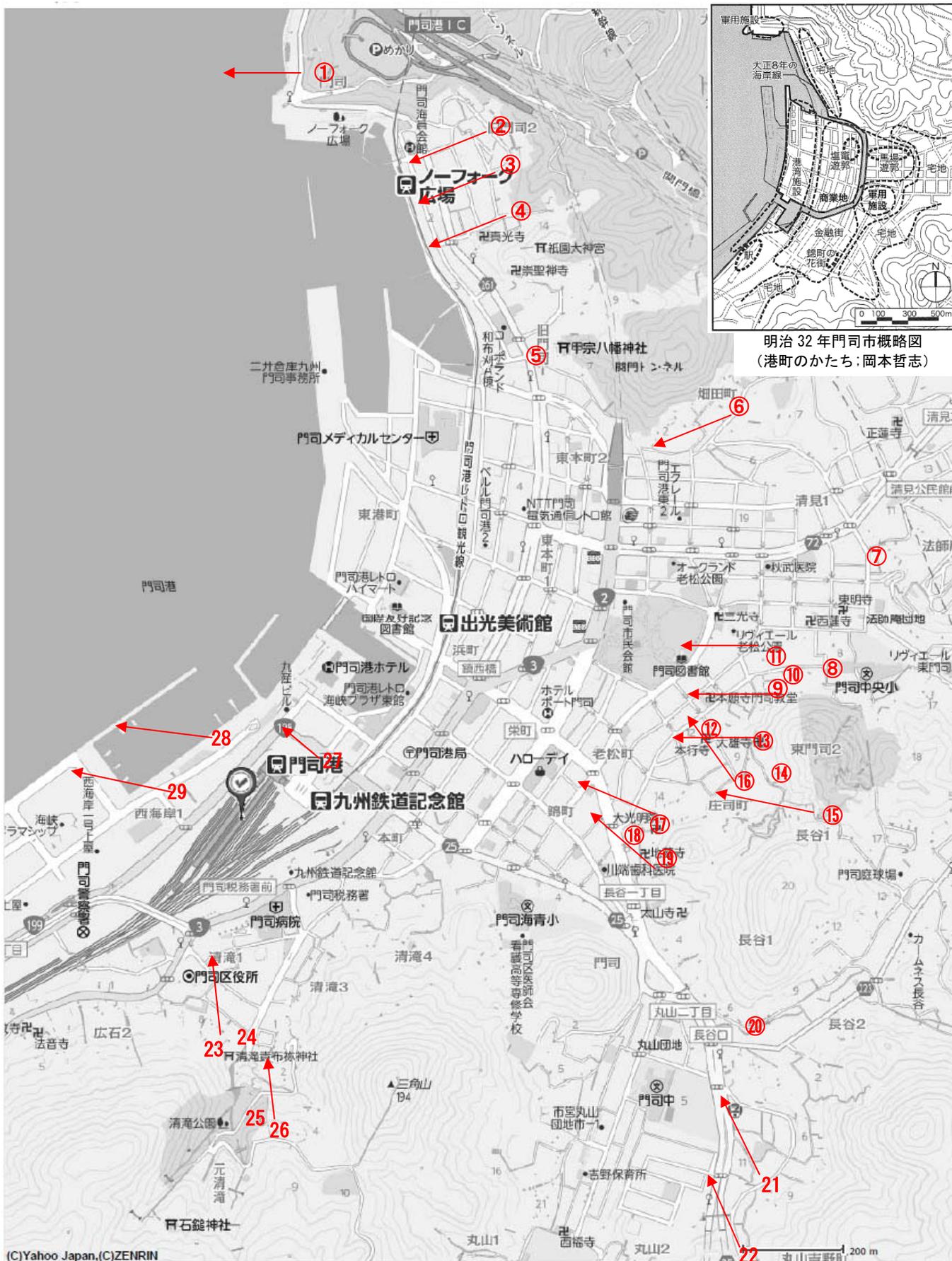
以下の3つの方法で行っています。

- ①船(もしくは電車から)から坂道を探し、風景を想像する。
- ②地図やgoogle map等で目星を付ける。
- ③実際に隈無く歩き回る。

私は、①の方法が大好きで確実です。船から見えるものは、坂道からも逆に見えるから。

北九州港門司港地区関門海峡視点場マップ 北九州港

門司港地区で港が見える坂道、高台などの視点場をまとめてみました。港巡り、町歩きの参考にして下さい。



(C)Yahoo Japan,(C)ZENRIN

Copyright (C) 2012 Yahoo Japan Corporation. All Rights Reserved.



① 関門人道橋出口



② 旧門司



③ 旧門司



⑤ 甲宗八幡神社



⑥ 畑田町西光時付近



⑦ 東門司



⑧ 竜門山地蔵



⑨ 竜門寺林間公園下



⑩ 竜門寺林間公園下



⑪ 竜門寺林間公園下



⑫ 老松町



⑬ 大雄寺より



⑭ 大師寺への路



⑮ 大師寺より

門司港地区の坂道、高台などの視点場は明治時代の市街地の宅地周辺部にあることがわかります。



⑯ 門司港アート村より



⑰ 大光妙院より



⑱ 庄司町



⑳ 旧軍下関要塞境界石



21 丸山吉野町



22 旧桜山トンネル内より



23 清滝貴布祢神社付近



24 清滝料亭ひろせ



25 元清滝



26 元清滝より



27 門司港駅前からの黄昏



28 船だまりからの夕日



29 事務所からの夕日

ご質問、ご意見、間違い等ございましたら吉田の方までご連絡下さい。
また、港の視点場、坂道の情報等お待ちしております。

「海と船の見える坂道」マップ①（門司港・小森江編）

北九州港

門司港地区（奥行きはあまりありませんが、急で車は入れない階段が多いようです。）



①マンションの右側を登る。



②料亭山水園の登り口。



③階段が複線状態。珍しい。



④結構階段続く。しかし景色は抜群。

このマップ作成のため、実際に現場に行って、「海と船の見える坂道」の確認を行いました。

①事前に、鹿児島本線の電車から毎日、山側を見て、どこに「海と船の見える坂道」があるか探しました。「門司港地区」の方が「小森江地区」より、斜面が海に近く急な斜面であるために電車からは目星が付けやすかったですね、

②実際の踏査においては、両地区とも、関門海峡がよく見え、「海と船の見える坂道」としてはおすすめてです。「門司港地区」は、関門橋方面、「小森江地区」は彦島と関門海峡がよく見えます。」

③ただし、両地区ともかなり上り下りがあるのでかなり疲れますよ。

「門司港地区」「小森江地区」ともに、坂の上の方は空き家が多いようです。

特に、階段式坂道の多い「門司港地区」のその傾向が顕著でした。



⑤珍しく車道有りの坂道。⑥は欠番。



⑦長い階段。関門橋まで見渡せる。



⑧狭い階段。でも海峡が見える。



⑨郵便局脇の狭い階段。



⑩一直線、階段登ってそこはお寺。



⑪斜めに上る階段。新サイロが見える。



⑫隣が空き地。かえって見晴らし良好。

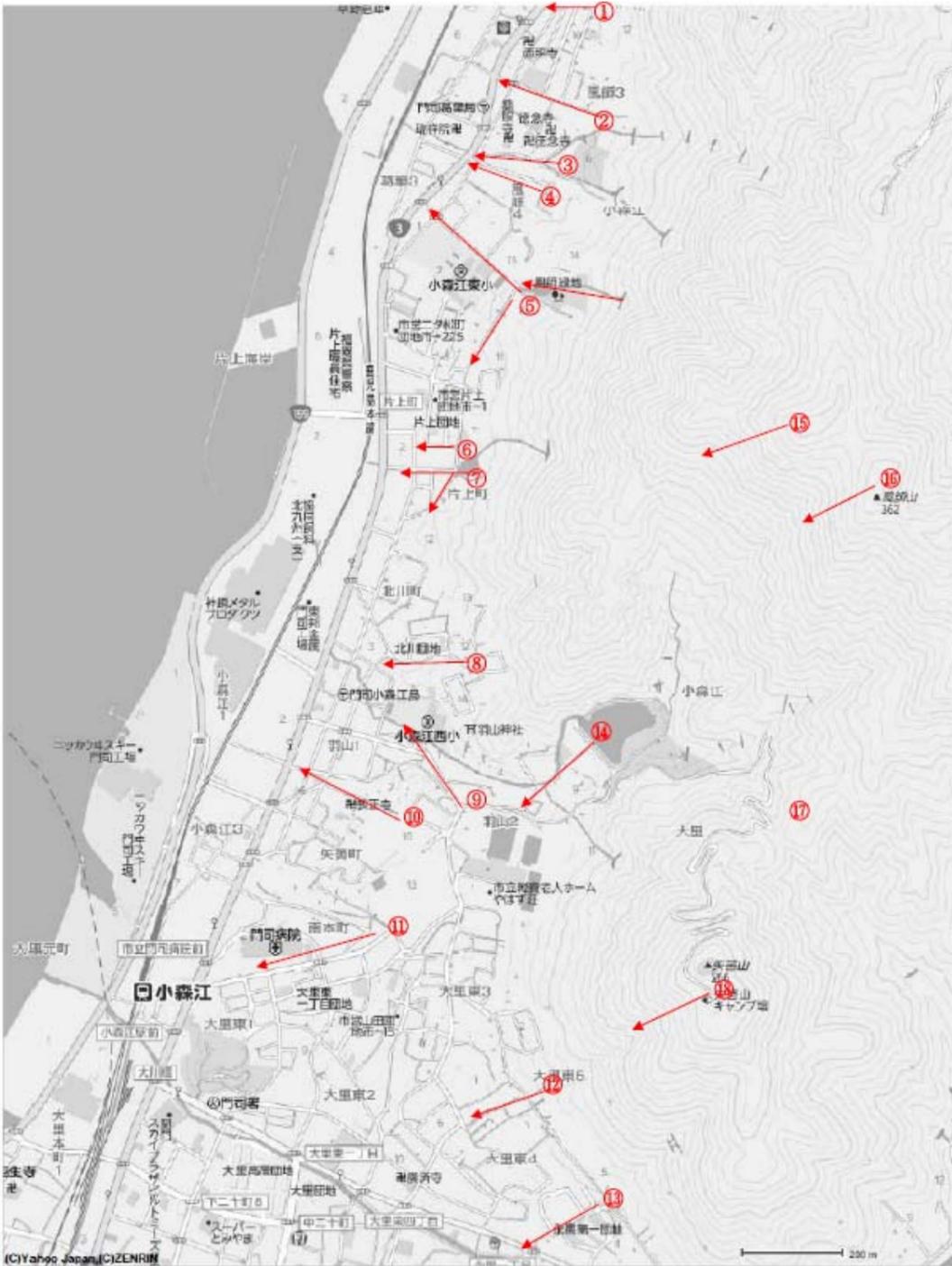


⑬狭い階段。かえって船がおもしろい。



⑭門司の中では一番大きい谷。

小森江地区（奥行きがあり、最初は坂道、徐々に急になり階段になる坂道が多いようです。）



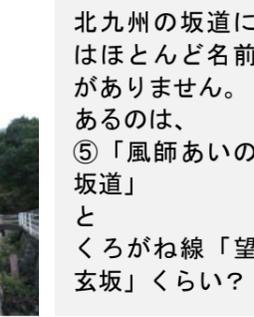
おすすめのコース

JR 小森江駅から、
⑩→⑨→⑭→⑮→
⑰→⑱→小森江駅
坂道もあれば登山、
産業遺産、軍事遺産盛りだくさんのコースです。

①複線坂道の上にしゃれた洋館。



②長ーい坂道の最後は石垣煉瓦塀のお屋敷。海峡がよく見える。



北九州の坂道にはほとんど名前がありません。あるのは、
⑤「風師あいの坂道」とくろがね線「望玄坂」くらい？

③小さい川の合流地点。



④坂道と階段。この地域典型的な坂道。



⑤名前は「風師あいの坂道」。長ーい坂道とそして階段が続く。中学校は閉校。



⑥スリップ止付舗装。⑦車も通れる坂道だらけ。当然海峡もOK。



⑧複雑すぎてどれがどの坂道かわからなくなるくらい。



⑨広く新しい坂道。⑩代表的な坂道。海峡の風が吹き抜ける坂道。



⑪何となく撮ってみました。



⑫関門海峡を望む穴場。



⑬小さな川沿いに坂道。小倉の海がよく見える。



⑭小森江公園の堰堤から海峡を。



⑮風頭から。一列航行。



⑯風師山山頂から。



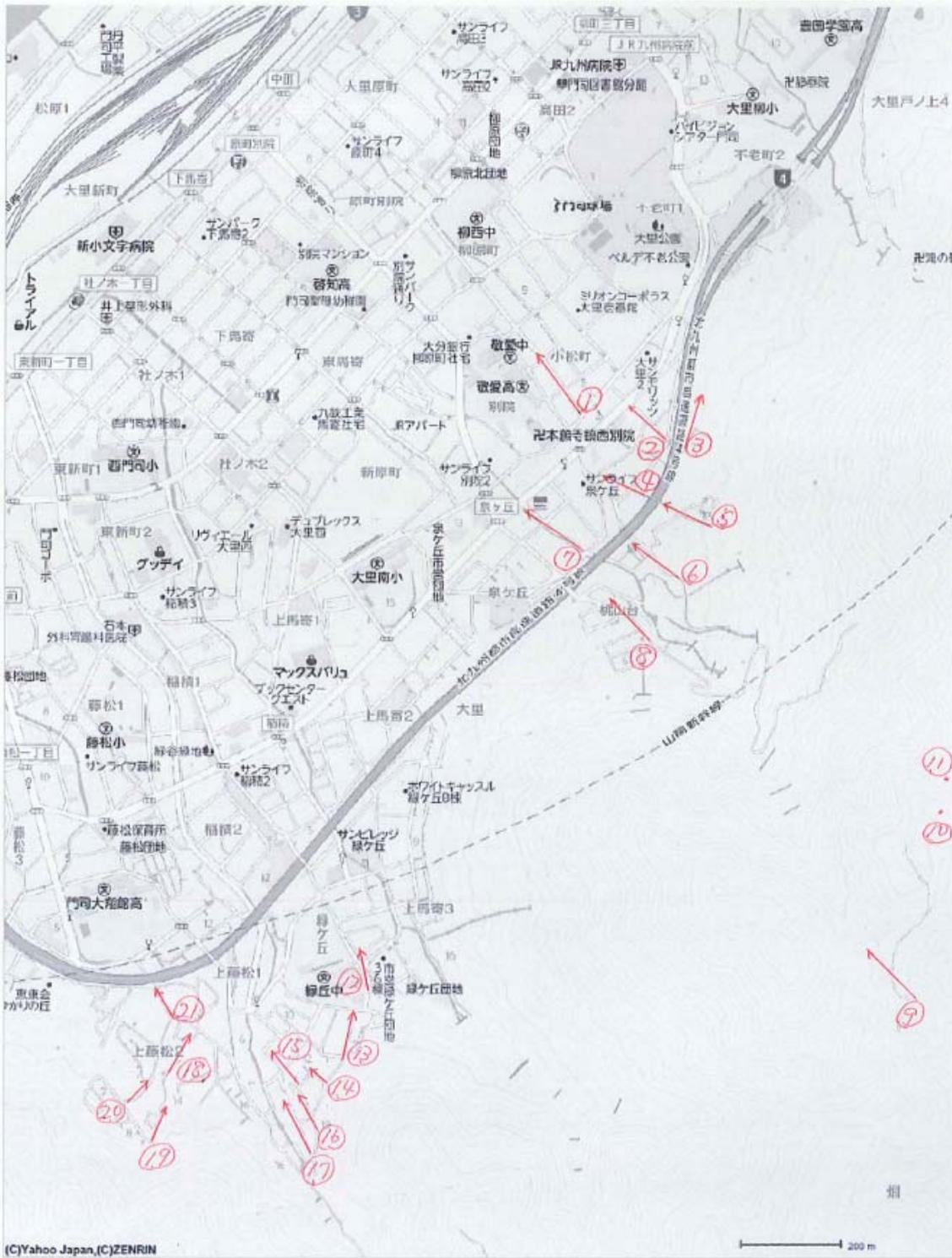
⑰下関境界石。



⑱矢筈山山頂から。海峡防備の最適地。要塞跡も。

ご質問、ご意見、間違い等ございましたら吉田の方までご連絡下さい。また、港の視点場、坂道の情報等お待ちしております。

「海と船の見える坂道マップ②～大里・緑が丘編～門司区」



1

2

3

3

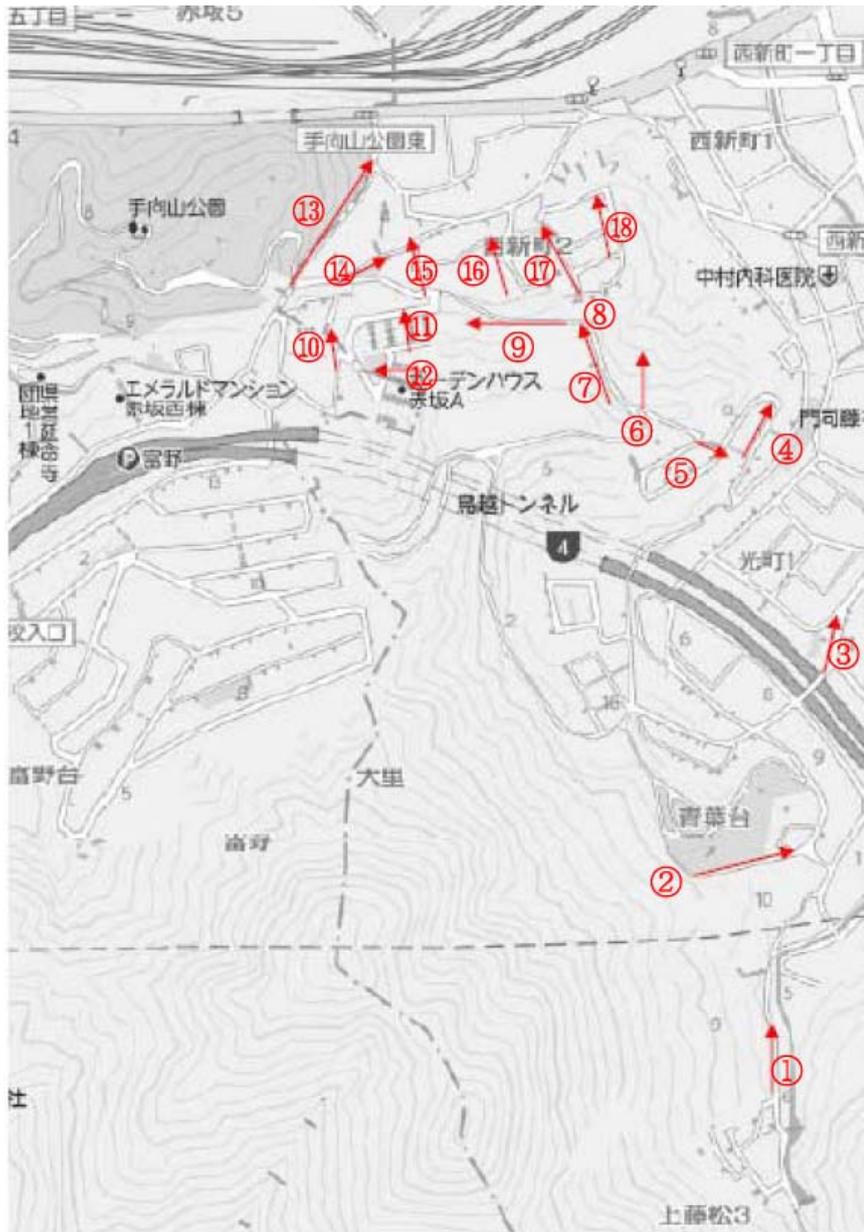


4

5



「海と船の見える坂道マップ③～西新・青葉台編・門司区～」





9



10



11



12



13



14



15



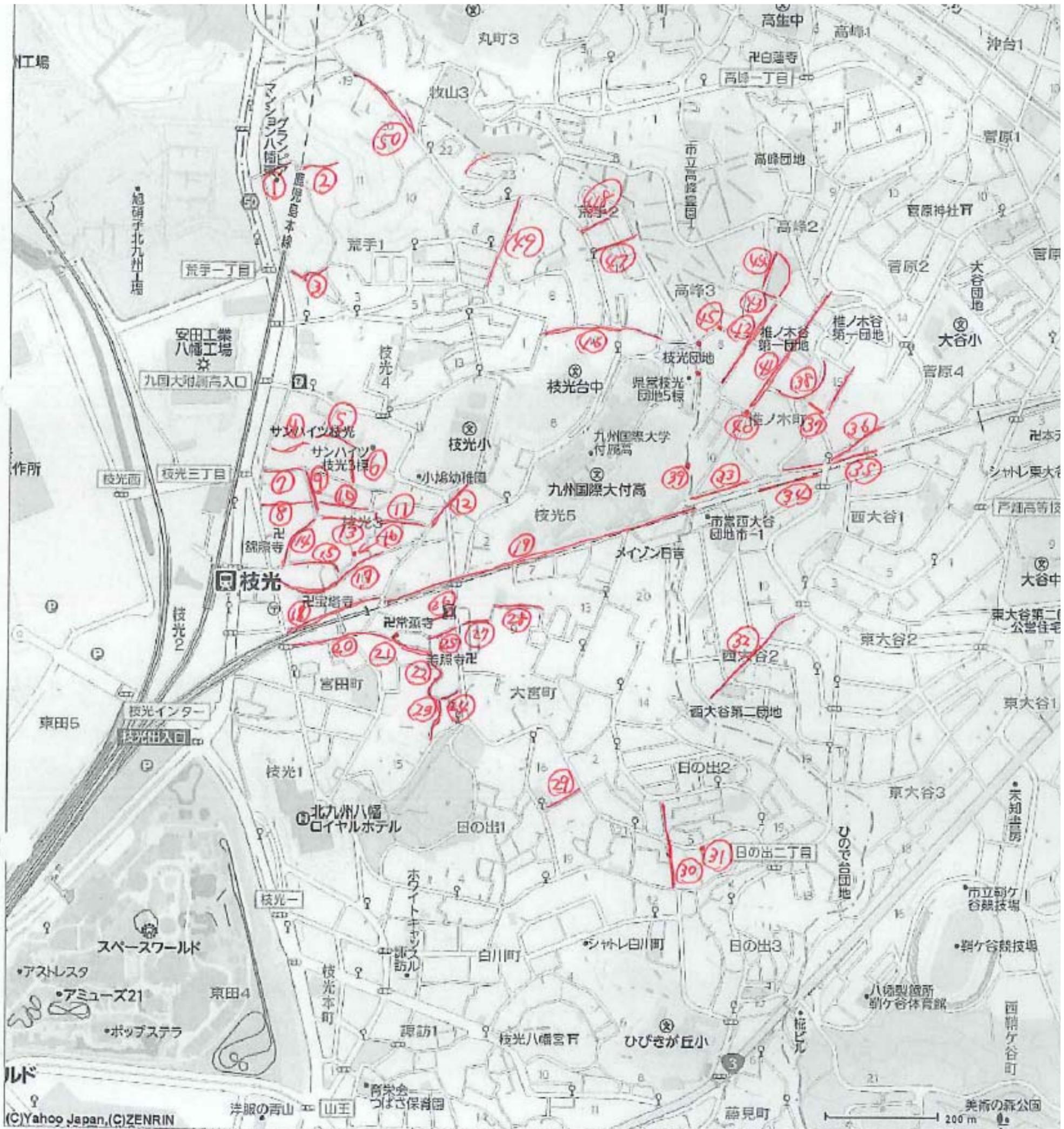
16



17



18



成





17



18



19

20

21

22



23

24



25

26

27

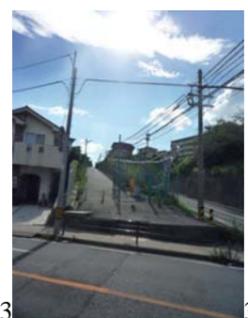


28

29

30

31



32

33

34

35

36

37

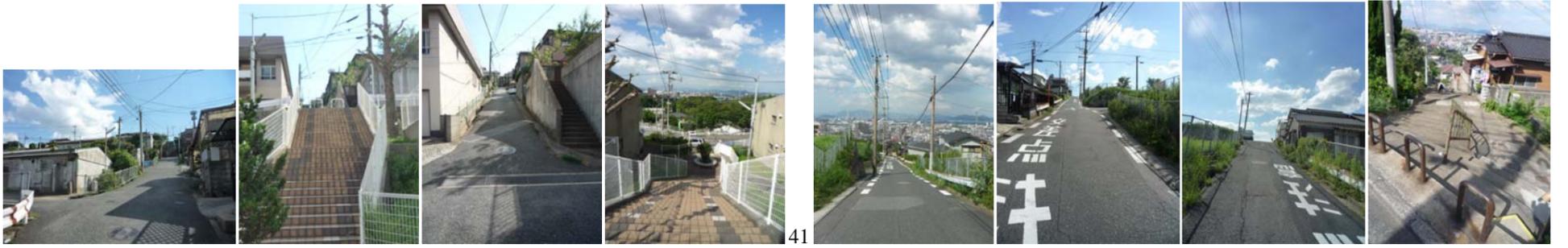


38

39



40



41



42

43

44



45

46

47



48

49

50

北九州港の「海と船が見える坂道」 ロケーションマップ

